

# 101歳の洋画家・野見山暁治氏 自身初の陶板レリーフを制作・監修 福岡県飯塚市の新体育館に2023年3月設置予定

公益財団法人日本交通文化協会(東京都千代田区、理事長:滝久雄)は、福岡県飯塚市に2023年4月に開館予定の飯塚市新体育館(以下、新体育館)のエントランスホールに、洋画家の野見山暁治氏が初めて手掛ける陶板レリーフ作品を、2023年3月に設置いたします。

制作にあたり、飯塚市内の小学一年生に“自分の夢、飯塚市の好きなところ、自分の好きなスポーツ”をテーマにした絵を募集しました。1,098枚の応募の中から選ばれた約40枚の作品からインスピレーションを得て、野見山氏が粘土で造形を制作します。これまで平面のキャンバスで表現をしてきた野見山氏にとって、立体の陶板レリーフの制作・監修は初めての試みです。

作品は、新体育館のエントランスホールの壁面4m×2mのエリアに、約10点の陶板レリーフを点在させて設置する予定です。スポーツを通じてだれもが多様な楽しみ方をできる施設として整備される新体育館に、安らぎのある豊かな空間を創出します。また、飯塚市出身の野見山氏と次代を担う飯塚市の小学生のコラボレーション作品として、多くの方に親しみや愛着を持っていただくことを目指します。

今後約一年をかけて、野見山氏による粘土造形をもとに、「クレーアーレ熱海ゆがわら工房」の職人らが拡大サイズの陶板レリーフを製作していきます。



<飯塚市新体育館 外観イメージ>

所在地：福岡県飯塚市鯉田1560番地5

## ■野見山氏プロフィール

野見山 暁治 (のみやま ぎょうじ) 福岡県出身 1920年生まれ  
洋画家。安井賞を受賞した「岩上の人」などがあり、絵画のほかにも絵本や数多くのエッセイを執筆し、人間味あふれる文筆活動でも多くのファンを持ち、1978年には「四百字のデッサン」で日本エッセイスト・クラブ賞を受賞するなど、文化・芸術の分野で活躍。文化功労者顕彰、文化勲章受章、現東京藝術大学名誉教授

